

地域密着型の貢献を継続

福井県コンクリート診断士会 定期総会開く

新会長に山川博樹氏を選任

11月21日に福井でフォーラム計画

18年度事業決める



設立15年目を迎え、さらなる研修事業の充実に意欲を示し挨拶する新会長の山川博樹氏

福井県コンクリート診断士会の18年度定期総会は28日開かれ、任期満了に伴う役員改選で新会長にM・T技研の山川博樹氏(46)を選任した。会創設来7期14年間務めた石川裕夏氏は今後は幹事として支える側に回り、引き続き日本コンクリート診断士会など全国規模の会議参加をになう役割分担とした。

議事ではこのほか会員の資質向上を図る研修会や地元自治体との協調をさらに深める諸事業を積極的に展開する事業計画・予算案などを慎重審議し、すべて原案通り了承した。福井市宝永3丁目の県国際交流会館で。

山川新会長は就任挨拶中「私自身この会の熱心さが好き」と率直に、今の実感する思いを述べ、前任の石川氏を引き継ぎリーダーシップを発揮し、全会員のフォローアップを受けた組織運営で事業の継承発展を図る抱負を示した。写真は新入会員あいさつ。



17年度は河内川ダム

理念の継承発展願う

建設工事の現場見学会や中津原トンネル点検・診断研修会などを実施。18年度も地域を支え、地域密着型の継続

した地域貢献活動の展開をはじめ11月21日に福井フォーラムを計画。会設立15年目を迎えて、正会員が140人

超(全国25地区診断士会中、東京診断士に次ぐ2番目の規模)で、今後は学会会員との協働も実現させたい考え。



石川氏は会長退任あいさつで14年前の設立当初を振り返り「診断士制度が設立されてまだ間もなく、全くその存在が知られていなかった。しかし近い将来必ず必要な資格になると確信し、資格の社会的な価値をもっと高めていきたい」との思いが活動の原点と紹介。当

【18・19年度の役員】 敬称略

会長 ⑧山川博樹 M・T技研

副会長

⑧江波清隆 富士土建

⑧濱岡弘二 日本ピーエス

幹事

⑧石川裕夏 福井宇部生コンクリート

⑧臼井裕喜 公益財団法人福井県建設技術公社

川崎敏明 帝国コンサルタント

⑧嶋瀬敬祐 M・T技研

多田浩二 エルディ

中山伸一 サンワコン

長谷川雅尚 ホクコン

板東慎一 嶺南デンカ生コン

宮本克彦 関組

安本倫章 中央測量設計

監査役

杉村佳昭 福井県嶺南振興局河内川ダム建設事務所

出口一也 福井県丹南土木事務所

事務局 ⑧吉川昌和 福井宇部生コンクリート

初は会員わずか14人でスタートし今では144人を擁すまで成長した。その間一貫して掲げる基本理念は「地域のコンクリート構造物の維持管理は、地域でやっていくべき。その中心的な役割は地域のコンクリート診断士が担うべきだ。そのためにも地域に根差した活動を地道に着実に、愚直に行い続けること。診断士としての研鑽を図りながら、自治体との連携にも注力し、活動を通して診断士の存在をさらに広く知ってもらいたい」と願いを込めて、後進にバトンを渡した。